

## 2. 健康長寿推進室

当室は、組織改革により平成 18 年度に管理室企画情報グループが独立分離し設置された。これに伴い、従来からの、センターが実施する調査研究や研修・指導事業や普及啓発事業等の企画・調整、大気汚染常時監視事業、環境情報総合処理システム事業などに加え、新たに健康寿命の算定や保健衛生関係の情報収集・提供に関する業務も担当することとなった。平成 18 年度の業務内容を表 3 に示す。

表 3. 業務内容

1. 調査研究などの企画・調整
(1) 研究課題評価委員会の運営
(2) 疫学倫理審査委員会の運営
(3) 合同研究発表会の運営
2. 研修・指導事業の企画・調整
(1) 保健衛生および環境保全に関する技術研修会の実施
(2) 福井大学医学部の環境保健実習
(3) インターンシップ研修制度への参加
3. 普及啓発事業の企画・調整
(1) 環境教室
4. 大気汚染常時監視事業
(1) 大気汚染測定局における常時監視測定
(2) 大気環境測定車「みどり号」による調査
5. 環境情報総合処理システム事業
(1) みどりネット（ホームページ）登録情報の追加更新
6. 健康寿命の算定
7. 保健衛生関係の情報収集・提供
8. 調査研究
(1) 健康長寿要因の研究
(2) 大気汚染濃度分布の解析に関する研究
9. ホームページの作成および情報の追加更新

### 2. 1 調査研究などの企画・調整

#### (1) 研究課題評価委員会の運営

当センターが行う調査研究について、所長、各室・部長、各グループリーダーなど 16 名からなる内部評価委員会（企画運営会議メンバー）および学識経験者、健康福祉センター所長、医師など外部の委員 8 名で構成する外部評価委員会を開催し、県民生活や社会への貢献などの観点から、より効果的・効率的に推進できるよう評価を行った。なお、外部評価委員会には本庁関係各課からオブザーバーとしての参加協力を得た。

平成 18 年度の会議の開催状況は表 4 のとおりである。また、外部評価委員会提出研究課題名および外部評価委員名（研究評価、機関評価）は I 運営概要の 7. 研究課題評価に記載し

た。

#### (2) 疫学倫理審査委員会の運営

当センターで実施する疫学調査研究については、学識経験者、医師、弁護士など外部の委員 7 名で構成する疫学倫理審査委員会に書面にて疫学的・科学的観点からの審査を受けた。

審査委員会の活動状況は表 5 のとおりである。

なお、疫学倫理審査委員会提出研究課題名および疫学倫理審査委員名は I 運営概要の 8. 疫学倫理審査委員会に記載した。

#### (3) 合同研究発表会の運営

当センターおよび原子力環境監視センターの研究発表会を平成 19 年 2 月 19 日（月）に実施した。発表演題 10 題のうち、当センターからは 8 題について発表した。（発表演題は IV. 3 所内研究発表会を参照）

表 4. 評価委員会開催状況

開催日	委員会および内容
18. 6. 27	研究課題内部評価委員会の開催 新規研究課題（6 題）、継続研究課題（8 題）終了研究課題（2 題）についての評価
7. 28	研究課題内部評価委員会報告書の作成
8. 31	研究課題外部評価委員会の開催 研究課題（新規 4 課題、継続 7 課題、終了 2 課題）についての評価
10. 5	研究課題外部評価委員会報告書の作成

表 5. 疫学倫理審査委員会の活動状況

期 日	委員会および内容
18. 9. 10	疫学倫理審査委員会に書面にて審査依頼 新規研究課題（3 題）、変更研究課題（1 題）についての審査
10. 10	疫学倫理審査委員会報告書の作成

### 2. 2 研修・指導事業の企画・調整

#### (1) 保健衛生および環境保全に関する技術研修会の実施

保健衛生および環境保全に関し、現在問題となっている技術的な事象について、県健康福祉センターおよび市町の担当職員を対象に研修会を実施した。

平成 18 年度の実施状況は表 6 のとおりである。

#### (2) 福井大学医学部環境保健実習

福井大学医学部環境保健学講座実習の一環と

して、「地域の保健衛生および環境保全に対する衛生環境研究センターの役割と医師としてどう関わっていくか」をテーマに、毎年学生を受け入れている。

今年度は保健衛生分野と環境保全分野でそれぞれ5名の学生を受け入れた。研修内容は下記の通り。

- ・ 期間：7日間 (5月26日～7月7日)
- ・ 内容：
  - 保健衛生分野 (病原微生物、食品衛生、環境衛生など) に関する講義と実習。
  - 環境保全分野 (大気汚染、水質環境、常時監視など) に関する講義と実習。

(3) インターンシップ研修制度への参加

大学生が在学中に就業体験をするインターンシップ研修制度 (福井県経営者協会主催) に参加し、学生の受入を行った。参加大学名、研修内容は下記の通り。

- ・ 参加大学名：福井工業高等専門学校
- ・ 期間：5日間 (7月31日～8月4日)
- ・ 研修内容：
  - 環境保全分野 (事業全般、有害大気汚染物質の分析、河川・湖沼の調査、環境化学物質 (環境ホルモン等) 調査、大気汚染監視テレメータシステムなど)
- ・ 研修生数：2名

表6. 保健衛生および環境保全に関する担当者技術研修会の実施状況

実施日	研修内容など	参加者	担当部
18.5.24 ～26	細菌検査技術専門研修会 ・ 食肉製品検査の細菌検査	4名	保健衛生部
6.13	食品衛生基礎技術研修会 ・ 食中毒検査法の概要と食中毒事例 ・ 食品衛生検査とGLP ・ 食品収去検査	7名	保健衛生部
6.20	環境保全・環境衛生基礎技術研修会 ・ 水質異常時における対応について ・ 感覚公害の測定法について ・ 福井豪雨における災害廃棄物処理をふり返って	25名	保健衛生部 環境部
10.20	感染症基礎技術研修会 ・ 感染症発生動向調査事業に係る病原体の検査方法、解析結果および当センターが取り組んでいる課題の紹介 ・ 患者情報の収集、解析、提供に関すること	19名	保健衛生部
11.22	環境・衛生技術研修会 演題：健康長寿と栄養素について 講師：仁愛女子短期大学 生活科学学科教授 糸川嘉則氏	39名	健康長寿推進室

2.3 普及啓発事業の企画・調整

小中学校等における環境教育を支援するため、当センターにおいて環境教室を実施した。

(1) 環境教室

①環境教室実施状況 (表7)

表7. 環境教室実施状況

実施日	事業名 (学校名)	対象者	参加者
18.8.20	親子環境教室	小学生 (5、6年生) とその保護者	16名
11.9	環境教室 (日之出小学校)	5年生	58名

②実施内容

- ・ 大気汚染の環境簡易調査実習 (NO、NO<sub>2</sub>バックテスト)
- ・ 水質汚濁の環境簡易調査実習 (pH、CODバックテスト、透視度)
- ・ 大気汚染監視テレメータシステム紹介

2.4 大気汚染常時監視事業

(1) 大気汚染測定局における常時監視測定

福井県大気汚染監視テレメータシステムにより県内の大気汚染状況の常時監視を次のとおり行った (大気汚染防止法第22条に基づく法定受託事務)。

- ・ 測定期間：平成18年4月1日～平成19年3月31日
- ・ 測定地点：三国局ほか計44局 (みどり号を除く。)

(種類別内訳)

一般環境大気測定局 (一般局)

県管理 18局 市町管理 18局

自動車排出ガス測定局 (自排局)

県管理 3局 市町管理 1局

特殊気象測定局 (気象局)

県管理 1局

発生源監視測定局 (発生源局)

企業管理 3局

・ 測定項目：

二酸化硫黄、浮遊粒子状物質、窒素酸化物、光化学オキシダント、炭化水素、一酸化炭素、風向・風速、温度・湿度、自動車走行台数、日射量・放射収支量、燃料使用量、排ガス温度、排ガス中硫酸酸化物・窒素酸化物・酸素濃度、発電量

・ 測定結果：

環境基準の定められている測定項目について県管理の測定局における測定結果は次のとおりであった。

(詳細についてはホームページ参照：

<http://www.erc.pref.fukui.jp/tm/>)

1. 二酸化硫黄 (SO<sub>2</sub>)：一般局7局で測定全局、環境基準を達成していた。
2. 浮遊粒子状物質 (SPM)：一般局18局、自排局3局で測定  
短期的評価では環境基準を超過した測定局があったものの、長期的評価では全局、環境基準を達成していた。
3. 二酸化窒素 (NO<sub>2</sub>)：一般局18局、自排局3局で測定  
全局、環境基準を達成していた。

4. 光化学オキシダント (OX) : 一般局 18 局  
で測定

全局で環境基準を超える値が測定されたが光化学スモッグ注意報発令(大気汚染防止法第 23 条に定める緊急時)には至らなかった。

5. 一酸化炭素 (CO) : 自排局 3 局で測定  
全局、環境基準を達成していた。

(2) 大気環境測定車「みどり号」による調査  
平成 18 年度は常時監視補完調査を 2 地点、  
行政依頼調査を 3 地点で実施した。

・調査地点と期間:

1 おおい町名田庄小倉

平成 18 年 5 月 9 日 ~ 6 月 6 日

常時監視補完調査

2. 若狭町上中兼田

平成 18 年 6 月 29 日 ~ 7 月 27 日

常時監視補完調査

3. 福井市白方町

平成 18 年 8 月 15 日 ~ 9 月 12 日

行政依頼調査

4. 勝山市昭和町

平成 18 年 10 月 5 日 ~ 11 月 2 日

行政依頼調査

5. あわら市権世

(1) 平成 18 年 6 月 8 日 ~ 6 月 15 日

行政依頼調査

(2) 平成 18 年 8 月 1 日 ~ 8 月 8 日

〃

(3) 平成 18 年 11 月 9 日 ~ 11 月 16 日

〃

(4) 平成 19 年 2 月 6 日 ~ 2 月 13 日

〃

・測定項目: 二酸化硫黄、浮遊粒子状物質、窒素酸化物、  
光化学オキシダント、炭化水素、一酸化炭素、  
風向・風速、温度・湿度

5 地点でオキシダントの環境基準値 (0.06ppm) を超過したが、注意報発令基準値 (0.120ppm) には至らなかった。その他の常時監視項目は環境基準値を下回っていた。

## 2. 5 環境情報総合処理システム事業

環境への負荷の少ない持続的発展が可能な社会の構築に向け、県民等が環境情報を有効に活用できるよう、みどりネット(ホームページ)登録情報の追加更新、システムの機能強化を行った。

(「みどりネット」:

<http://www.erc.pref.fukui.jp/>)

(1) ホームページ登録情報の追加更新

文書情報・データベースの追加

・平成 17 年度環境白書(本編・資料編)

・平成 18 年度海水浴場の水質調査結果について

・18 年度 PRTR 集計結果

・アスベスト関係情報

・環境ふくい推進協議会情報紙「みんなのかんきょう」  
(平成 18 年度発行分)

・福井県衛生環境研究センター年報(2004 年度)

・福井県の自動車交通騒音の常時監視結果

・平成 17 年度大気・水質の常時監視結果と公害苦情の概要について

・平成 16、17 年度ダイオキシン類調査結果について

・平成 16、17 年度大気・水質の常時監視結果と公害苦情の概要について

(2) 行事案内等の掲載

・温暖化ストップ親子大作戦の募集案内

・「わが社のエコ宣言」事業所一覧掲載

・平成 18 年度ふくい環境力向上活動交流会の開催

・「ふくい環境シンポジウム」の開催

・環境ふくい推進協議会

・「2006 環境活動リーダー育成講座」の参加者募集

## 2. 6 健康寿命の算定

(1) 県、各市町の平成 17 年分健康寿命の算定

年齢階級別の死亡、年齢別要介護認定者数、年齢階級別の人口をもとに、県独自の方法で健康寿命の算定を行った。平成 12 年から県、各市町村単位の健康寿命の算定を実施しているが、平成 17 年は市町村合併に伴い、新市町での算定を実施した。

(2) 健康寿命の経年変化

男性は順調に健康寿命も伸びているが、女性は男性ほどの伸びは見られなかった。女性の場合、要介護認定者数が急増している影響も示唆された。市町ごとでは人口規模における誤差も考慮しながら検討した。

## 2. 7 保健衛生関係の情報収集・提供

(1) 福井県のがんによる死亡のデータ分析

人口動態統計調査から福井県の全死亡、全がんおよびがんの部位別の年齢調整死亡率、標準化死亡率を計算、経年推移、全国との比較検討を行った。

(2) 福井県の出生に関する統計の作成

平成 13 年から 17 年までの人口動態統計の出生・婚姻のデータから福井県の「出生に関する統計」を関連各課、健康福祉センターと共同で報告書としてまとめ、県のホームページ上で公開した。データの集計、処理方法の検討と県分の統計処理は当センターが行い、各市町分は各健康福祉センターが管轄地域の統計処理を行った。

(3) 食事摂取基準を用いた平成 16 年度県民健康・栄養調査結果の評価・分析

平成 16 年度に行った福井県民健康・栄養調査の結果について、2005 年版食事摂取基準を

用いて統計的な分析・評価を行った。この結果は、健康増進課から市町、各健康福祉センターなど関係機関に配布された。

## 2. 8 調査研究

平成 18 年度は、次の調査研究を実施した。

(1)の調査研究内容については、研究課題評価・疫学倫理審査を受け、平成 18～19 年度の 2 カ年計画で実施している。(2)については、16～18 年度の研究成果が国立環境研究所研究報告第 195 号として公表されている。(3)については、17～18 年度の 2 カ年計画で所内プロジェクトチームが実施している。

### (1) 健康長寿要因の研究

—平成 18 年豪雪が福井県の高齢者等の健康状態に与えた影響—

### (2) 大気汚染濃度分布の解明に関する研究(共同研究)

—日本における光化学オキシダント等の挙動解明に関する研究—

### (3) 花粉症の実態および花粉情報提供システムの構築に関する研究

## 2. 9 ホームページの作成および情報の追加更新

当センターの業務内容、活動および行事などの情報を、体系的に分かり易く提供した。